



こちら高小情報局



高小情報局とは？

私たち5年生が直接見学に行ったり、お話を聞いたりして学んだことを地域や全国に発信していきます。震災後の「陸前高田」でがんばっている人たちを紹介するためにリーフレットを作りました。このリーフレットでは「陸前高田市で働く人たち」を紹介します。

陸前高田市立高田小学校 5年1組一同

■キャピタルホテル1000・松田修一さんの思い■

キャピタルホテルの松田さんは、泊まるお客様に「疲れをとってほしい。ゆっくりしてほしい」という思いで働いているそうです。また、「通過型」から「滞在型」のホテルにするのがこれからの目標だと話されていました。震災当時は、復興の工事などのために宿泊する人が多かったホテルを、これからは陸前高田市の観光に繋げていきたいという考えを教えてくださいました。

その松田さんの思いが、ホテルの様々なサービスを生んでいると思いました。松田さんのお話を聞いて、私たちが陸前高田市の魅力をもっと見つけて、たくさんの人に発信したいと思いました。

■AMAZAKE STAND・小西莉絵さんの思い■

陸前高田市の未来商店街にあるAMAZAKE STANDを経営している小西莉絵さんは、大船渡市で生まれ育ちました。高校生のときに初めて陸前高田市に来て、高田高校のバレ一部に所属していました。小西さんは、高校の友達とよく高田松原に行っていたそうです。

2011年3月11日に東日本大震災が東北を襲いました。そのとき、小西さんは東京の大学にいたので助かりましたが、友達や津波や地震で命を落としたそうです。

小西さんは、「高田のまちはなくなっても、残された人の思いは、なくならない」とおっしゃっていました。「陸前高田市に何か返しがしたい」という思いで、AMAZAKE STANDを建てたそうです。

小西さんが陸前高田市に建ててよかったと思っていることは、「地域の温かさに触れることができた。夢が叶ったし、また新しい夢ができた。故郷だからこそつながり、幸せがたくさんある」ということです。小西さんのお話を聞いて、私たちが感謝の気持ちを忘れずに、プラスな考え方で過ごしなが、今を大切に生きていきたいと思いました。

■発酵パークCAMOCY・河野通洋さんの思い■

八木澤商店9代目社長の河野さんは、来ていただいたお客さんに幸せになってもらいたいという思いで、働いているそうです。そして、アルバイト・社員にも幸せになってほしいと思っているそうです。

パンなどを購入した時に「おいしい」「また、食べたい」などの喜びの言葉をもらえると嬉しいそうです。

震災後に建てたCAMOCYの建物や屋根は、地元の大工さんが、裏山の間伐した木で作ってくれたそうです。

河野さんは、「地域と自然が共に生きていく未来」を目指しているそうです。

■桜木家具を再び建てるまで・高橋勇樹さん■

高橋勇樹さんの経営しているお店、桜木家具は、東日本大震災前は、陸前高田と大船渡、奥州市江刺にありました。しかし、東日本大震災が起き、陸前高田と大船渡の二店舗は流されてしまいました。震災後、仮設住宅ができましたが、家具が無くて困っている人がたくさんいたそうです。高橋さんの携帯にはたくさんの電話がかかってきて、家具を作ってほしいという依頼がありました。高橋さんは依頼を受けたお宅に行き、カタログを見せながら何がほしいかを聞き、残っていた材料を使って家具を作り、2年間続けたそうです。ある日、お客さんから「実物が見たい」と言われたことがきっかけで、桜木家具を再建することを決めました。でも、震災で陸前高田や大船渡には建てる場所がなく困っていたところ、ある人が土地を譲ってくれました。そのおかげで、桜木家具を再び建てることができました。今の桜木家具は、その復活したお店です。震災から10年が経ち、高橋さんは今も桜木家具を経営し続けています。

■いわ井・磐井正篤さんの思い■

陸前高田市にある「いわ井」というお店を震災後も続けている磐井正篤さん。震災後、多くの人々の支えがあったからこそ、お店を続けることができたそうです。震災を経て、初めて商売の楽しさを知り、人の役に立つことの喜びを感じるようになったとおっしゃっていました。また、友達や人とのつながりがどれほど大切なのかに気付くことができたそうです。

この仕事のやりがいについて聞くと、「ありがとう」と言ってもらえる瞬間、そして自分も心の底から「ありがとう」と言える瞬間に、大きなやりがいを感じるとおっしゃっていました。また、「せっかく生きているのだから、楽しく生きたい」とも話されていました。磐井さんにとって「ありがとう」はとても大切な言葉であり、一番大切なものは友達と人とのつながりだとおっしゃっていました。また、一生懸命な姿はかっこいいとも感じており、その姿勢を大切にしているそうです。さらに、いろいろな人が生きやすい場所を作るためには、一人一人が少しずつ我慢することが必要だということも教えていただきました。磐井さんのお話を聞いて、私たちが感謝の気持ちと言葉を大切にしながら、自分の周りの人のことも考えて生きていきたいと思いました。

■ワタミオーガニックランド・鈴木空慈さんの思い■

ワタミオーガニックランドは地球に優しい施設を目指しています。環境面ではソーラーパネルを使ってぶどうを栽培したり、風車を建てたりしています。農業面では有機農業を行っています。有機農業とは肥料や薬を使わずに栽培することです。有機農業をすると環境にやさしく、消費者も安心して食べてくれます。

働いている鈴木さんは「環境に優しい施設を目指していきたい。」とおっしゃっていました。

■伊東文具・伊東亜希子さんの思い■

伊東文具店は、幅広い世代の方に利用されています。

震災前、伊東文具店は「リプル」というお店の中にありました。

2011年3月11日に東日本大震災が起こりました。東日本大震災でリプルも流されてしまいました。

しかし、他の文具店のみなさんの支援のおかげで仮設店舗や商品を準備することができました。亜希子さんは店内にあったいろいろな文房具をみて、ワクワクしたから「またやろう！」という気持ちをもったそうです。文房具だけ売っていると、地域の人たちから「また本も売って欲しい」という声があり、文房具店と本屋を合体させた今の形のお店になったそうです。震災から、6年後にアバッセ高田をお店を始めることができました。

伊東亜希子さんは、「お客さんが『楽しい、居心地がいい』と思うお店を目指している」とおっしゃっていました。そして、楽しむことを大切にしているそうです。これから頑張りたいことは、今も楽しいお店だけど、さらに楽しいお店にすることだそうです。